



ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.

個人投資家様向け 会社説明資料

2026年 8月版

August 2026 Presentation Material

Tokyo Stock Exchange PRIME section STOCK CODE : 9619



JPX-NIKKEI Mid Small

01

イチネングループについて

会社概要 P.4
主要グループ会社一覧 P.5
イチネングループ主要指標 P.6
イチネングループの沿革 P.7

02

イチネングループが向かうところ

イチネングループの強み P.9
PBR向上に向けた対策 P.10
イチネングループ経営方針及び
中長期戦略 P.15

03

イチネングループの事業紹介

自動車リース関連事業 P.21
ケミカル事業 P.22
パーキング事業 P.23
機械工具販売事業 P.24
合成樹脂事業 P.25
アグリソリューション事業 P.26
その他事業 P.28

04

決算報告・今期計画

2026年3月期 決算報告 P.30
2027年3月期計画（連結） P.33

05

株主還元について

配当方針 P.36
株価の推移 P.37

06

企業価値向上に向けた取り組み

ESG・SDGsの取り組み P.39
ウェブサイト・資料のご案内 P.41

01

1.イチネングループについて

02

2.イチネングループが向かうところ

03

3.イチネングループの事業紹介

04

4.決算報告・今期の計画

05

5.株主還元について

06

6.企業価値向上に向けた取り組み

会社概要



- 商号 株式会社イチネンホールディングス
ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD
- 設立年月日 1963年（昭和38年）5月7日
- 本社所在地 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
- 代表者 代表取締役社長 黒田 雅史(くろだ まさし)
- 上場 東証プライム（証券コード：9619）
- 資本金 2,529百万円（2026年3月31日現在）
- 売上高 162,254百万円（2026年3月期連結実績）
- 決算月 3月
- 従業員数 連結2,067人（2026年3月31日現在）
- 経営理念 当社は、最高の品質とサービスで、より多くの顧客に満足を与え、適正な利潤を確保することにより、株主および従業員に報い、且つ社会に奉仕することを経営の基本理念とする。
- グループスローガン いちねんで、いちばんの毎日。

当社は、一日、一日が最高の毎日（いちねんで、いちばんの毎日）となるように、グループの製品やサービスを通じて皆様に快適さをご提供するとともに、SDGs、脱炭素等の環境に配慮した製品・サービスの開発を進め、持続可能で豊かな社会に貢献できる事業の拡大を目指してまいります。

主要グループ会社一覧



イチネン イチネン TDRリース

ICHINEN AUTOS (N.Z.) イチネン オートス・ジャパン



イチネン アクセス イチネン TASCOTASCO (THAILAND) CO.,LTD.

イチネン ネット イチネン ロジスティクス

イチネン MTM ICHINEN USA 蘇州豊島機械配件有限公司



イチネン 製作所

イチネン テック イチネン ポリマー

マルイ工業株式会社 M&T

イチネン ケミカルズ

ICHINEN CHEMICALS (THAILAND)



イチネン 農園 イチネン 高知日高村 農園

日東工ゾー株式会社 明京商事株式会社

日東運輸倉庫株式会社 太陽肥料株式会社

イチネン MAC エムシーファークコム株式会社

イチネン パーキング



新光硝子工業株式会社 新生ガラス

イチネン ファシリティーズ

イチネングループ主要指標

※2026年3月期実績ベース



売上高

162,254
(百万円)

売上総利益

35,454
(百万円)

営業利益

10,926
(百万円)

ROE

11.24 %

ROA

5.28 %

PBR

0.77 倍

1株利益

323.49
(円)

1株当たり配当額

80
(円)

配当性向

24.7 %

従業員数

2,067 人
連結合計

M & A実績

16 件
(2010年3月期～2026年3月期)

海外拠点

4 か国
(非連結企業含む)

事業会社

45 社
(非連結企業含む)
※2026年7月末時点

セグメント

6 セグメント



自動車リース事業

売上高

641
億円

連結売上構成比率

39.2 %

営業利益

6,769
百万円

連結営業利益
構成比率

62.1 %



ケミカル事業

売上高

120
億円

連結売上構成比率

7.4 %

営業利益

1,061
百万円

連結営業利益
構成比率

9.7 %



パーキング事業

売上高

81
億円

連結売上構成比率

5.0 %

営業利益

1,436
百万円

連結営業利益
構成比率

13.2 %



機械工具事業

売上高

380
億円

連結売上構成比率

23.3 %

営業利益

251
百万円

連結営業利益
構成比率

2.3 %



合成樹脂事業

売上高

190
億円

連結売上構成比率

11.6 %

営業利益

▲170
百万円

連結営業利益
構成比率

▲1.6 %



アグリソリューション事業

売上高

196
億円

連結売上構成比率

12.0 %

営業利益

1,453
百万円

連結営業利益
構成比率

13.3 %



その他事業
(ガラス)

売上高

23
億円

連結売上構成比率

1.5 %

営業利益

100
百万円

連結営業利益
構成比率

1.0 %

沿革

イチネングループは石炭販売から新たな可能性を追求し、多様な事業を通じて、時代とともに発展してまいりました。

1930

創業

石炭から石油へ転換



- 1930 黒田重太郎商店を創業、石炭販売業を開始
- 1963 黒田商事(株)設立、EMGマーケティング(同)と販売代理店契約締結



1969~

自動車関連分野に参入

自動車分野を中心に成長



- 1969 商号を(株)イチネンに変更、自動車リース業を開始
- 1980 自動車メンテナンス受託事業を開始
- 1994 大阪証券取引所市場第二部(旧：新二部) 上場
- 2000 野村オートリース(株)、アルファオートリース(株)をグループ会社化
- 2002 パーキング事業を開始
- 2004 (株)コーザイをグループ会社化、自動車・産業用ケミカル事業に参入
- 2005 東京証券取引所市場第一部、大阪証券取引所市場第一部上場
- 2006 タイホー工業(株)をグループ会社化、(株)コーザイと合併し、(株)タイホーコーザイ(現：(株)イチネンケミカルズ)に商号変更



2008~

多角化経営へ

自動車の変革を見据え、新たな事業へ参入



- 2008 持株会社体制へ移行、商号を(株)イチネンホールディングスに変更(株)イチネンパーキング営業開始(パーキング事業部を新設分割)
- 2009 黒田雅史が代表取締役社長に就任
- 2012 前田機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業に参入。(株)ジコー(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業に参入



2013

各事業の強化

M&Aを通じた事業多角化の強化

- 2013 タスコジャパン(現：(株)イチネンTASCO)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2014 (株)ミツモ製作所(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2015 東電リース(株)をグループ会社化、(株)イチネンTD リースに商号変更
- 2016 (株)イチネン農園を設立し、農業に参入野村オートリース(株)とアルファオートリース(株)が、野村オートリース(株)を存続会社として合併



- 2017 グループの物流業務効率化を目的とし、株式会社イチネンロジスティクスを設立。(株)イチネンケミカルズ 研究開発センターを移転(神奈川県藤沢市)
- 2018 昌弘機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)及び(株)トヨシマ(現：(株)イチネンMTM)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化(株)イチネンとイチネンBPプラネット(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併(株)イチネン前田と(株)イチネンミツモ、(株)ゴンドー、(株)イチネンSHOKO、(株)トヨシマが、(株)トヨシマを存続会社として合併し、(株)イチネンMTMIに商号変更(株)イチネン農園の事業の一部を会社分割し、(株)イチネン 高知日高村農園を設立(株)アクセス(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2020 (株)浅間製作所(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業を強化

現在

- 2021 新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業に参入
- 2022 (株)オートリをグループ会社化し、パーキング事業を強化(株)イチネンMTMの事業の一部を(株)アクセスへ吸収分割により継承し、(株)アクセスは(株)イチネンアクセスへ商号変更(株)イチネンジコーと(株)浅間製作所は、(株)浅間製作所を存続会社として合併し、(株)イチネン製作所へ商号変更東京証券取引所市場再編に伴い、プライム市場に移行
- 2023 (株)イチネンパーキングと(株)オートリは、(株)オートリを存続会社として合併し、(株)イチネンパーキングへ商号変更マルイ工業(株)と日東エフシー(株)をグループ会社化し、合成樹脂事業・アグリソリューション事業を強化
- 2025 日石硝子工業(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業を強化(株)イチネンと野村オートリース(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併
- 2026 新生ガラス(株)と日石硝子工業(株)が、新生ガラス(株)を存続会社として合併持分法適用関連会社であった太陽肥料(株)の株式を追加取得し、完全子会社化することで、アグリソリューション事業を強化。三菱商事アグリサービス(株)(現：(株)イチネンMAC)及びエムシー・ファティコム(株)をグループ会社化し、アグリソリューション事業を強化。



01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループの向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

1

単一事業に
偏らない

多角化経営

2

収益機会の
創出

ニッチ市場の開拓

109億円

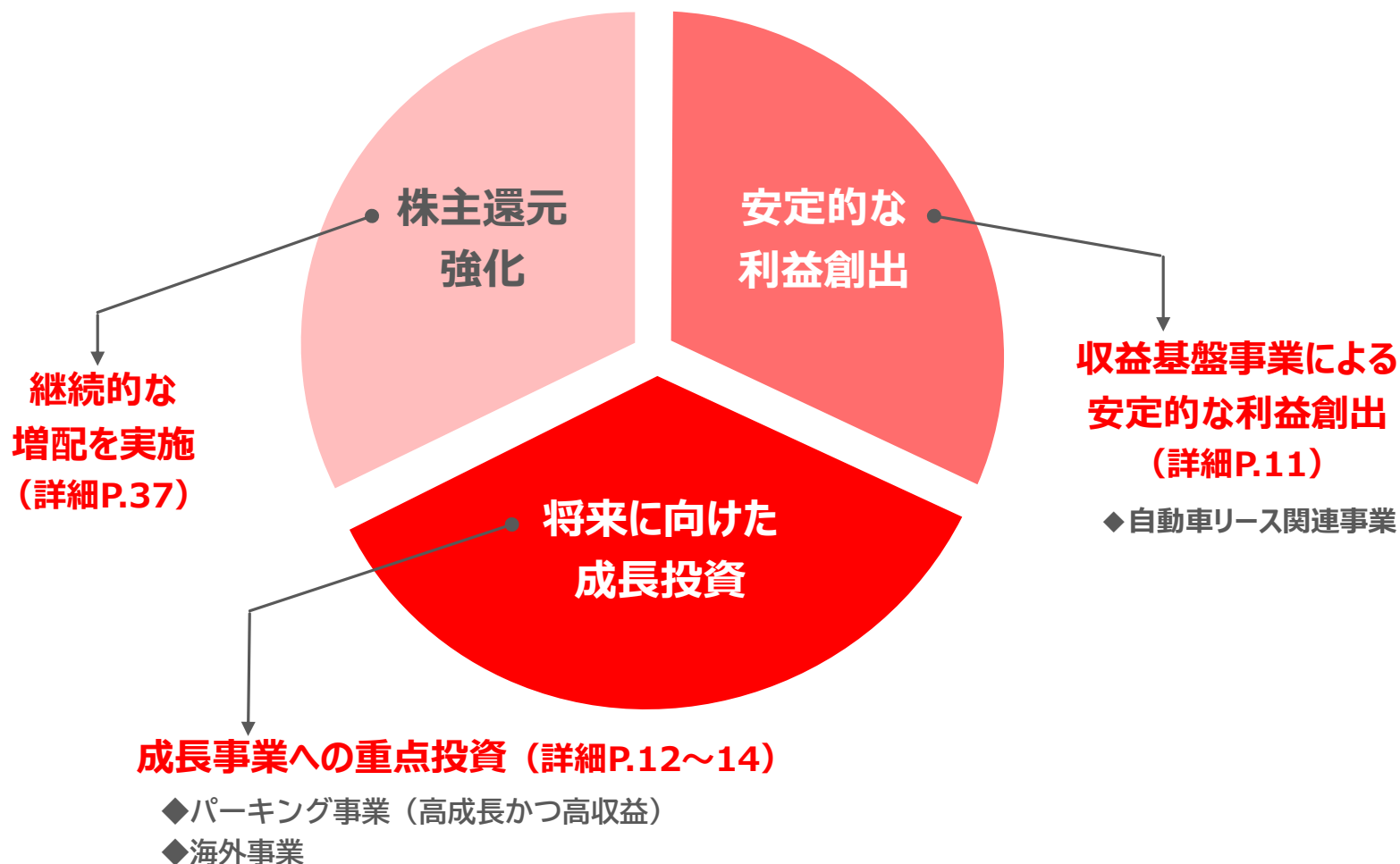
前年同期比6.3%増

連結営業利益

23期連続の増益



イチネングループのPBR改善策 3本柱



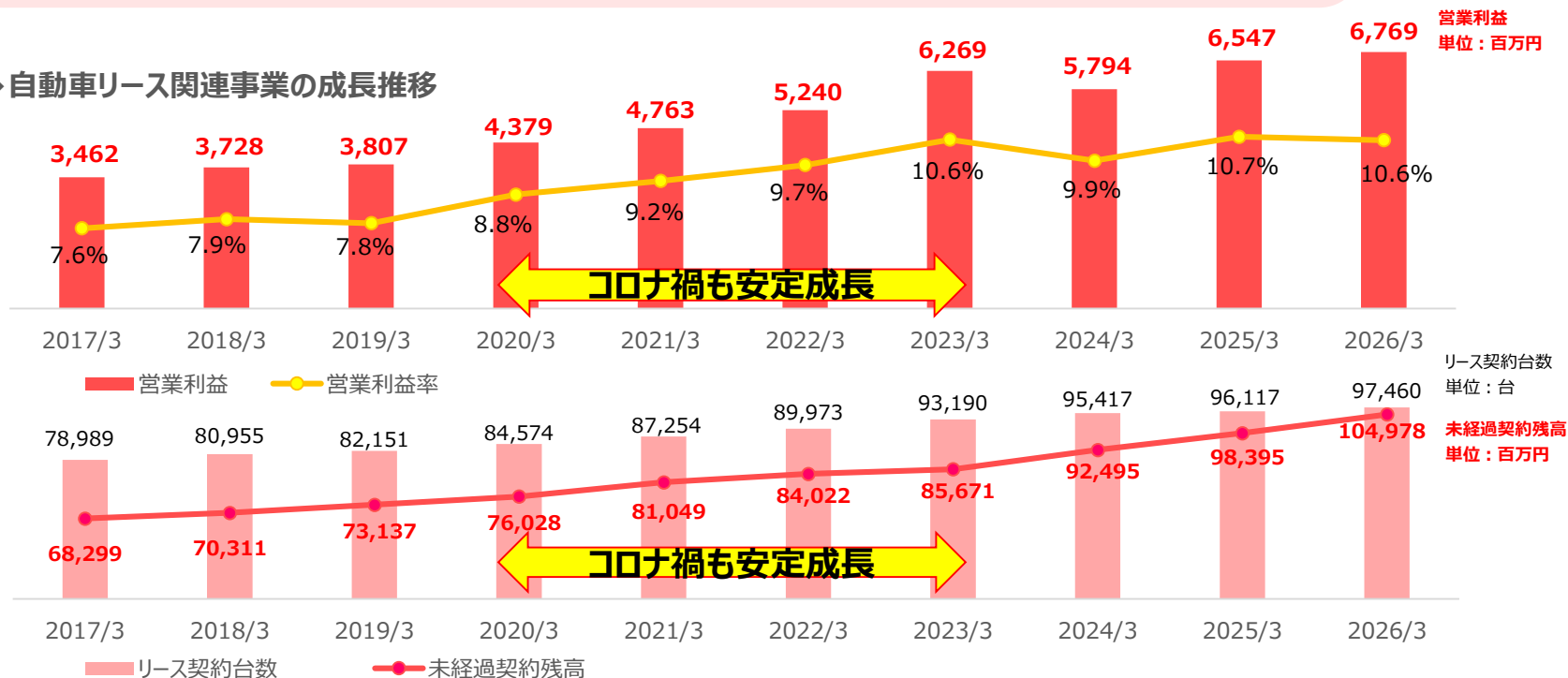
安定的な利益創出

自動車リース関連事業は、グループの収益基盤事業として
今後も規模拡大に注力し、**安定的な利益創出を実現します**

POINT

- 安定的な利益成長により、**グループの盤石な収益基盤を形成**
- EV化が進んでも、リース契約台数は今後も継続伸長が見込める
- 収益基盤事業の安定的な利益をベースに、**成長事業への投資を加速**
- コロナ禍においても**安定した業績を維持・成長**

◆自動車リース関連事業の成長推移



将来に向けた成長投資

① パーキング事業への積極投資

高成長かつ高収益なパーキング事業に積極投資を実施

■ 駐車場の新規設備投資による稼働率向上

キャッシュレス決済、フラップレス駐車場の導入を加速し、利便性向上による顧客獲得、稼働率の向上に繋げる

■ M&Aによる事業規模拡大

2022年3月に(株)オートリ(2023年4月にイチネンパーキングと合併)を子会社化

② 海外事業への投資拡大

海外売上高比率20%の達成に向け、積極的な取り組みを実施

■ 注力地域、期待地域での事業拡大（詳細はP13）

※注力地域：タイ、期待地域：バングラデシュ、モンゴル

■ M&Aの更なる強化、スピードアップ

- 海外に一定の事業基盤を持つ国内企業のM&Aを推進
- 当社事業と親和性のある海外企業のM&Aを検討

将来に向けた成長投資～海外事業への投資拡大～

グループ拠点

4か国 (タイ、アメリカ、中国、ニュージーランド)

グループ会社

7社 ※非連結含む

◆タイ

TASCO THAILAND 【機械工具販売事業】
MARUI SUM / MARUI INDUSTRY 【合成樹脂事業】
ICHINEN CHEMICALS (THAILAND) 【ケミカル事業】

◆ニュージーランド

ICHINEN AUTOS NZ 【自動車リース関連事業】

◆アメリカ

ICHINEN USA 【機械工具販売事業】

◆中国

蘇州豊島機械配件有限公司 【機械工具販売事業】

海外戦略

■注力地域:タイにおける既存事業の拡大

- 空調工具の独自ブランド「TASCO BLACK」の商品ライン拡充・開発強化
- グループ商材のタイにおける拡販（タイ合併会社の有効活用）

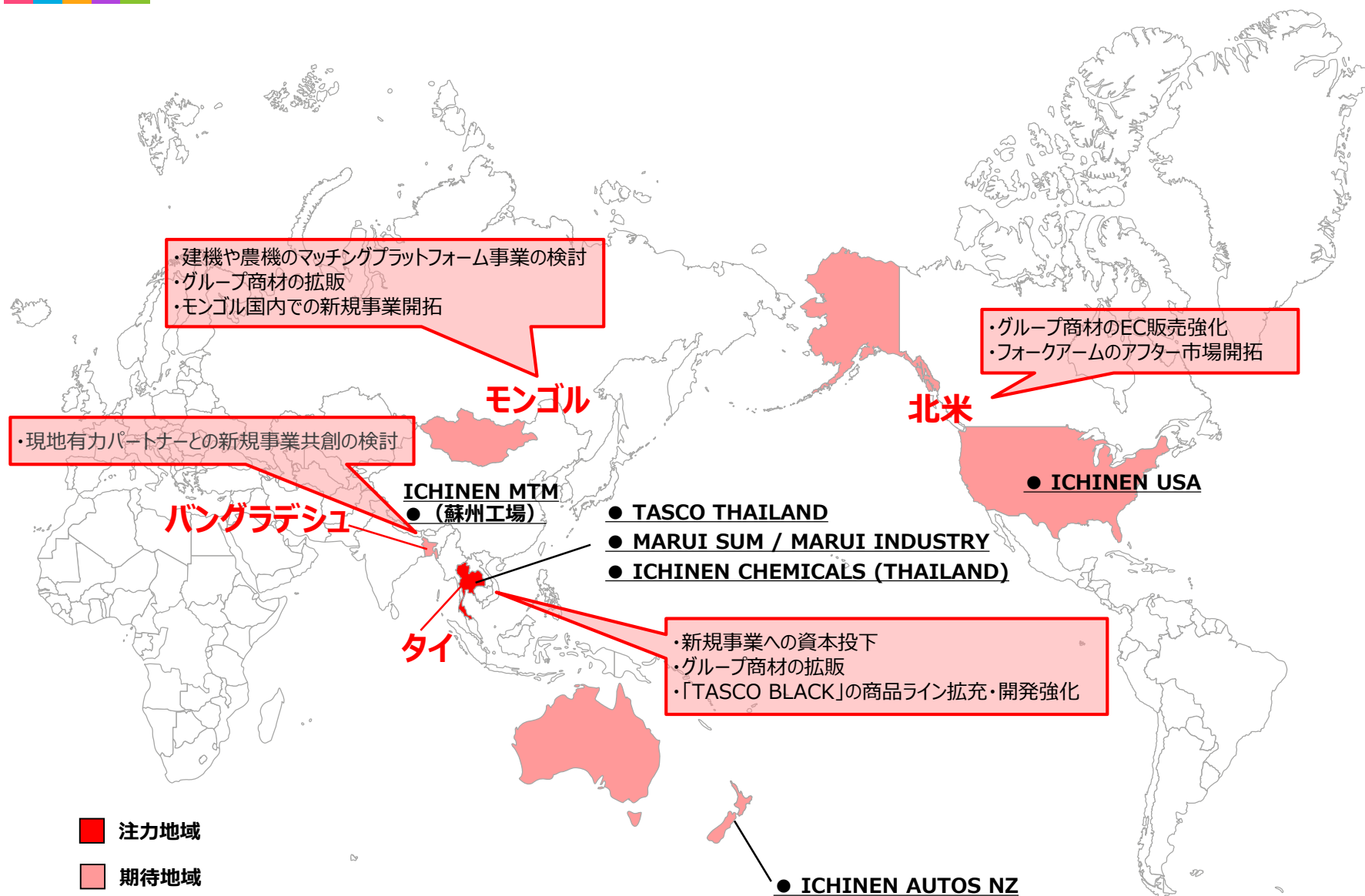
■期待地域:バングラデシュ、モンゴルにおける新規事業展開

- バングラデシュでは、現地有力パートナーとの新規事業共創の検討
- モンゴルでは、新規事業展開の検討及びグループ商材の輸出販売の推進

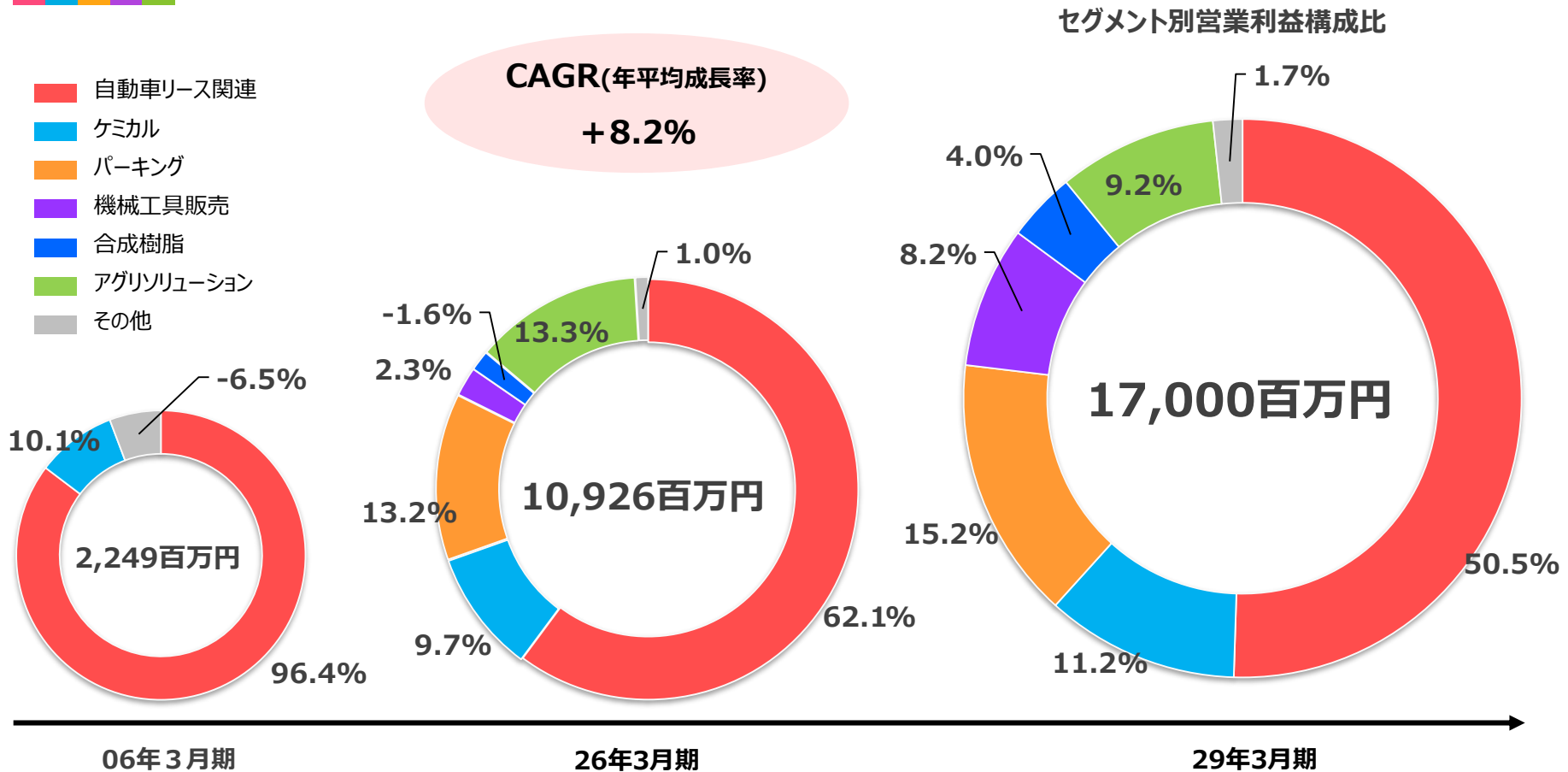
直近の進捗

- ✓ 2023/10/16付で、自動車用内外装部品の製造・販売を行うタイの子会社2社を含む**マルイ工業**がグループ入り
- ✓ 2025/8/1付で、タイでのイチネンケミカルズ製品の売上拡大を目的に、
ICHINEN CHEMICALS(THAILAND) を設立

将来に向けた成長投資～海外事業への投資拡大～



イチネングループ経営方針～中期目標～



経営方針

- 既存事業**：自動車リース関連に次ぐ事業の柱の育成
(各セグメントの成長による収益源の分散化)
- 新規事業**：M&A・事業提携等による新規事業領域の拡充
- 財務方針**：財務健全性の維持と成長投資を両立

中期目標

- 営業利益**：170億円
- 自己資本**：920億円超
- 自己資本比率**：40%超

成長戦略

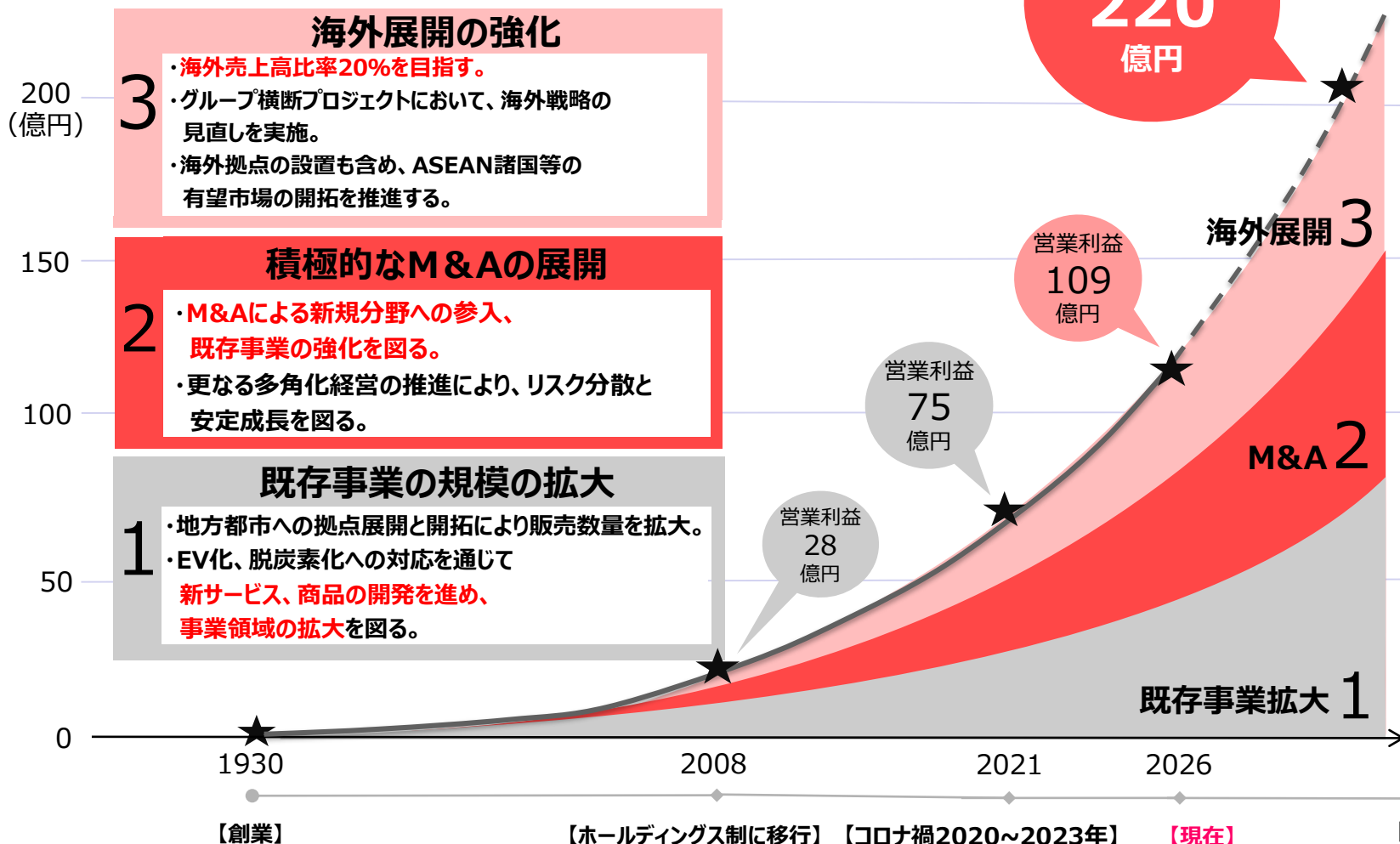
長期経営数値目標

売上高

2,300 億円超

営業利益

220 億円超



M&A戦略



目的

M&A活用により、事業規模・事業間シナジーの拡大や
海外戦略を加速化させ、**コングロマリット・プレミアム**を目指す

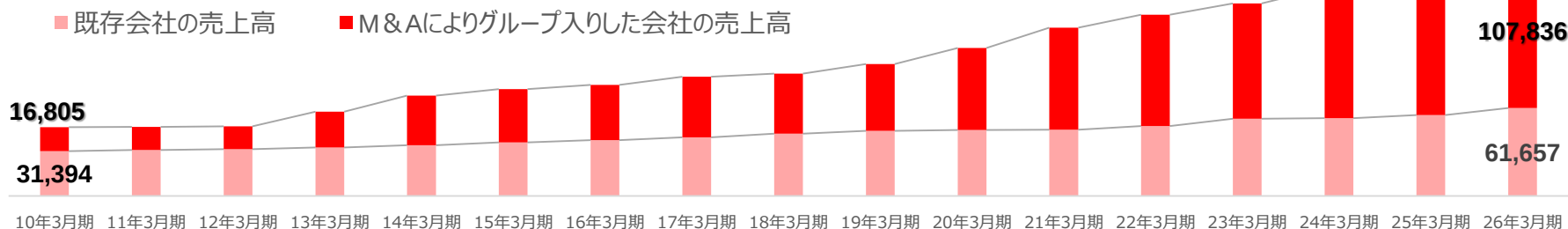
基準

事業領域を限定せず、グループ入り後**ただちに業績に寄与**すること

実績

16件 (2010年3月期～2026年3月期)

(単位：百万円)



直近の実績

NEW

アグリソリューション事業の規模拡大

【グループ入り】2026年4月3日

◆ 太陽肥料株式会社

【事業内容】肥料の製造・販売

【拠点】本社：茨城県神栖市

【プレスリリース】



【グループ入り】2026年6月1日

◆ 株式会社イチネンM A C

(旧：三菱商事アグリサービス株式会社)

【事業内容】

肥料原料の輸出入事業、

各種肥料製品・農業資材の販売事業

【拠点】本社：東京都千代田区

◆ エムシー・ファースティコム株式会社

【事業内容】

肥料の製造・販売

【拠点】本社：東京都千代田区

【プレスリリース】



イチネングループシナジー

グループインによるシナジー効果

 自動車リース関連事業

 ケミカル事業

 パーキング事業

 機械工具販売事業

 合成樹脂事業

 アグリソリューション事業

 その他事業



経営基盤強化

HD体制により管理部門を共通化。
コスト削減に加え本業に注力できる体制を実現



顧客・販路の相互活用

既存顧客へのクロスセルや新市場・商圏への
展開スピード向上に寄与



人財価値向上

グループ間交流・プロジェクト参画・研修の
多様化による人材育成の高度化



ガバナンス高度化

グループ統制を強化し、透明性と
意思決定力を向上



事業価値創出

各社の持つノウハウ・技術連携により
付加価値の高い事業の創出を促進



信頼価値向上

グループブランドにより社会からの
信頼を高めることに寄与

シナジーを活かした商品開発



FLARE AID (TA920FB)

～液状漏れ防止剤～

冷凍空調工具業界No.1である(株)イチネンTASCOと
(株)イチネンケミカルズによる共同開発商品。

工事店様のニーズをくみ取り、従来のスプレータイプの
製品ではなく、粘着性のある製品に仕上げております。

(株)イチネンTASCOの企画力と(株)イチネンケミカルズの技術
力を活用し完成した製品となっており、

多くのお客様にご好評をいただいております。



R2PB パーキングブロック

(株)イチネン製作所と(株)イチネンパーキングによる共同開発商品。

廃タイヤ由来の再生ゴムチップを活用したパーキングブロックを開発・発売
しました。

本製品は、成形時にCO₂を排出しない特殊製法を採用するとともに、
広告活用も可能な機能性を備え、
環境配慮と付加価値の両立を実現しています。



新たな価値創出への挑戦

① 既存技術や事業を活かした新たな挑戦

既存事業や技術を活かし、新たな市場や新事業へ挑戦

■ イチネン製作所

長年培ってきた**樹脂成形・加工技術**を活かし、玩具・美容領域の**新たな市場へ挑戦**。

玩具分野：『おふろアクアリウム』（日本おもちゃ大賞2025デジタル部門優秀賞受賞）

『totonoi link fit』『JUMP PIT』（2026年販売予定）

美容分野：「ib」（ichinen beauty）ブランド設立。

ハンディファン発売中。



② スタートアップとの共創による価値創出

スタートアップとの共創で新たな価値・事業を創出

単なる財務投資としてではなく、**グループ事業との協業・技術活用**を前提とした**戦略投資**。AI×DX×新サービスなどの技術
を有する企業との連携を通じて、**既存事業の高度化**や**新規事業創出**を推進。

スタートアップ

先進技術・アイデア



AI・DX・IoT
ロボティクス等



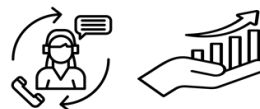
イチネングループの強み

- ・幅広い顧客基盤
- ・海外拠点、グローバル展開
- ・多角的な事業展開



新たな価値・事業創出

- ・新サービスの展開
- ・業務効率化の促進
- ・新市場の開拓
- ・既存事業の競争力強化



スタートアップ投資実績

9社（2026年3月時点）

医療分野：3社、AI分野：2社、
ロボット分野：1社、
プラットフォーム分野：2社、
ソリューションビジネス分野：1社

01

1.イチネングループについて

02

2.イチネングループが向かうところ

03

3.イチネングループの事業紹介

04

4.決算報告・今期の計画

05

5.株主還元について

06

6.企業価値向上に向けた取り組み

高品質なメンテナンス付き自動車リースを軸に 車に関連する様々なサービスをワンストップで提供

事業内容

- ・オートリース：法人顧客向けメンテナンス付き自動車リース
- ・自動車メンテナンス受託：リース車両のメンテナンスを他のリース会社様より受託
- ・車両販売：リース満了車・外部仕入れ車両の販売
- ・燃料販売：「燃料給油カード」などの販売
- ・車体修理管理サービス：車体の外装修理サービスの提供

強み

- ・北海道から九州までをカバーする全27拠点体制
- ・全国に広がる提携整備工場のネットワークをフル活用
- ・独自の車両販売ルートの確立（ICHINEN AUTOS（N.Z））



成長戦略

- ・徹底したエリアマーケティングをベースとした台数規模の拡大
- ・リースアップ車の処分ルートが多様化
- ・個人リース市場の開拓

自動車リース関連事業の指標

事業売上高

64,135百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

6,769百万円
(2026年3月期実績)

リース/メンテナンス受託 契約台数

リース：**97,460台**
メンテ：**77,981台**
(2026年3月末時点)

燃料カード販売実績

発券枚数：**252,437枚**
給油数量：**222,396kl**
(2026年3月末時点)

提携整備工場 ネットワーク

全国約9,000社
(2026年3月末時点)

環境対応・省エネ・生産性向上など、顧客のニーズに応える 多彩なケミカル製品を開発・販売

事業内容

- ・プロユースケミカル事業：潤滑剤、防錆剤（自動車整備工場向け）等の販売
- ・テクノケミカル事業：燃料添加剤（火力発電所等向け）等の販売
- ・コンシューマケミカル事業：クリンビューブランド（カーケミカル用品）等の販売
- ・新規事業開発：その他商材の開発、販売



ケミカル事業の指標

強み

- ・創業以来、産業用工業製品、家庭用化学製品の分野で独自の技術開発力とノウハウを保有
- ・確かな技術と厳しい品質管理でお客様に信頼されるケミカル製品を提供
- ・業界内で高シェアを誇る添加剤事業

成長戦略

- ・新たなニッチ市場におけるNo.1製品の開発を目指す
- ・脱炭素社会を見据えた環境配慮型製品の開発加速
- ・海外展開を加速し、販売地域、販売品目を拡大

事業売上高

12,082百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

1,061百万円
(2026年3月期実績)

海外販売国

15か国
(2026年3月末時点)

部門別売上シェア

PC事業部：**47.7%** TC事業部：**27.6%**
マリン営業部：**10.3%** 海外FC営業部：**4.6%**
CC営業部：**8.7%** 新規事業開発部：**1.1%**
(2026年3月期実績)

安全・安心、利便性の高い「ストレスフリー」な駐車場運営により 高稼働・高収益を実現

事業内容

- ・コインパーキングの運営：
土地を借り上げ、初期投資費用、ランニングコストは全て当社が負担
- ・施設付帯駐車場の管理受託・運営：
病院、商業施設等の駐車場の設備投資から運営管理までを当社が受託



東京科学大学様の
駐車場

強み

- ・コインパーキングの収益性を高める
小回りの利いた販売促進策
- ・病院等に付帯する立体駐車場の
建設から管理運営までを一括して
受注するPFI事業

成長戦略

- ・既存駐車場の売上拡大、収支改善
- ・新規情報源の開発による駐車場数の拡大
- ・キャッシュレス/フラップレス化等の推進による
サービス品質向上
- ・デッドスペースの有効活用（バイク駐輪用
スペースの新設等）

パーキング事業の指標

事業売上高

8,169百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

1,436百万円
(2026年3月期実績)

中期目標

売上高 100億円
営業利益 20億円

地域別契約割合 (件数ベース)

関西 55.4%
関東 35.6%
(2026年3月末時点)

駐車場管理件数

コイン・立駐：**1,726箇所**
来客用駐車場：**214箇所**
管理受託：**61箇所**
(2026年3月末時点)

自動車/産業機械用部品・冷凍空調工具等、多種多様な商材を ラインナップし、自社オリジナル商品も数多く展開

事業内容

- ・イチネンアクセス：自動車部品・産業資材・各種工具などの販売
- ・イチネンMTM：フォークリフト用アームの製造
- ・イチネンTASCO：空調冷凍工具・計測機器等の販売
- ・イチネンネット：ネット販売事業
- ・イチネンロジスティクス：グループ内の物流事業

強み

- ・幅広い商品ラインナップを持ち自社ブランド製品も数多く展開
- ・TASCOブランドの空調工具は国内トップシェア
- ・セグメント内の各社販路を活用したクロスセル等、仕入・販売の両面における高いシナジー

成長戦略

- ・オリジナル製品の開発、販売強化による収益向上
- ・ネット通販事業のさらなる収益拡大
- ・脱炭素社会に向けた取扱い商材の拡充
- ・海外展開の強化
- ・物流機能の集約による効率化



機械工具販売事業の指標

事業売上高

38,019百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

251百万円
(2026年3月期実績)

中期目標

セグメント売上高
500億円超

海外拠点

3拠点
(アメリカ、中国、タイ)

製品紹介



**第25回
経済産業大臣賞
受賞**

イチネンTASCO
冷媒回収装置
"クワトロ"TA110VF

確かな技術力で遊技機部品、自動車用内外装部品等の 企画・デザイン・設計・試作・生産までを一気通貫で提供

事業内容

- ・遊技機部品事業：遊技機等のプラスチック製品のデザイン・製造・販売等
- ・合成樹脂事業：リサイクル樹脂・オリジナル再生樹脂の販売
- ・科学計測器事業：ガス濃度計や警報器、セラミックヒーター等の製造、販売
- ・自動車用内外装部品事業：エンブレムや自動車内外装部品の製造・販売



合成樹脂事業の指標

事業売上高

19,029百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

▲170百万円
(2026年3月期実績)

中期目標

**セグメント売上高
300億円超**

海外拠点

タイ
(グループ会社2社)

強み

- ・主要大手メーカーとの安定的な取引関係を維持
- ・製品のデザインから金型設計、成形、特殊加工、組立まで一気通貫の生産体制を構築

成長戦略

- ・既存技術を応用した新製品の開発・販売
- ・高付加価値な樹脂材料の拡販
- ・製品の生産効率向上・量産化
- ・海外事業展開の強化

新規取組紹介

イチネン製作所では既存事業で培った技術を生かし、ネクスプライズ事業を設立し、新規分野への挑戦を行っております。



『おふろアクアリウム』

肥料の製造・販売・輸入事業を軸に、自社農場の展開による 社会価値の創造にも挑戦

事業内容

- ・肥料事業：多種多様な肥料の研究開発から製造・販売・技術普及まで幅広く展開
- ・商社事業：国内外の原料調達、海外の化学・肥料製品の輸入や国内へ肥料を販売
- ・農園事業：ミニトマト・パプリカ・ピーマンの栽培、地域野菜の普及、6次産業化

強み

- ・肥料の原料調達から製造・出荷まで一貫した生産体制
- ・農家様への栽培技術指導等の独自ノウハウ
- ・大規模な次世代ハウスによる農作物の大量生産・販売



成長戦略

- ・農作業省力肥料の開発・販売強化、ラインナップ拡充
- ・気候変動に対応した肥料製品の開発、販売強化
- ・販売ルート多様化に向けた新規顧客開拓
- ・農業ベンチャー企業と連携したDXの推進

アグリソリューション事業の指標

事業売上高

19,635百万円
 (2026年3月期実績)
 (※1)

営業利益

1,453百万円
 (2026年3月期実績)
 (※1)

肥料 年間生産量

124,554トン
 (2026年3月期実績)
 (※1)

肥料原料調達 海外ネットワーク

13か国
 (2026年3月時点)

国内肥料 生産拠点数

12箇所
 (2026年3月時点)

**農作物
年間生産量**
ミニトマト 335トン
パプリカ 25トン
ピーマン 256トン
 (2026年3月期実績)

(※1) 太陽肥料株式会社、株式会社イチネンMAC、エムシー・ファーターコム株式会社の実績は含まれておりません。

アグリソリューション事業の目指す姿

グループシナジーにより、収益力・成長力・社会価値を向上させる



2027年3月期 計画
売上高

531億円



2027年3月期 計画
営業利益

20億円

グループ内にある4つの機能



原料調達

イチネンMAC、明京商事



研究・開発・製造

日東エフシー/エムシー・ファーマコム等



自社農園

イチネン高知日高村農園



販売・顧客基盤

イチネンMAC他各社

連携



シナジーによって生まれる3つの価値



収益力

安定調達・製造の効率化等で
収益基盤を強化



成長力

新製品の開発、新規顧客開拓や海外
展開を加速し、規模拡大



社会価値

事業を通じて食料の安定供給や
環境に配慮した製品の製造に貢献

グループシナジーによる連携を深め、アグリソリューション事業の持続的な成長を目指す

曲げガラスを柱とした唯一無二の技術力を武器に 強化ガラス・合わせガラス等の多彩なガラス製品を展開

事業内容

・新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)：
曲げガラスの加工を柱とし、ビル建材・内装・ケース・車輛用などの多様な板ガラスの加工製品を製造・販売。また、液晶調光ガラス、装飾合わせガラス、防音合わせガラス、強化ガラス、タペストリーガラスなど、住宅、オフィス、商業施設向けに多様な板ガラスの加工製品も幅広く製造・販売。

強み

- ・ガラス加工製品の専門メーカーとして長年積み上げてきた確かな技術力
- ・商業用施設やオフィスビル、美術館などあらゆる市場の顧客ニーズに対応

成長戦略

- ・都市圏の再開発案件等の早期情報収集及び受注強化
- ・生産効率の向上を目的とした機械化・DX化を推進



新幹線はやぶさフロントガラス



東京証券取引所マーケットセンター



マジックヴェール



その他事業の指標

事業売上高

2,358百万円
(2026年3月期末実績)

営業利益

100百万円
(2026年3月期末実績)

技術紹介

「とやまブランド」の認定

当社グループ会社である新光硝子工業(株)の「3次元曲面成型加工ガラス」は、富山県推奨「とやまブランド」に認定されました。
本認定は、地域産業の高度化や独自性の高い技術・製品を評価する制度であり、当社の成型加工技術が有する技術力と市場価値が公的に認められました。



01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

2027年3月第1四半期 事業別業績天気図



… 営業利益が前期比で増加。事業が好調で安定して成長している状態。



… 営業利益が前期比で横ばい～微減。事業に課題があり、成長が停滞している状態。



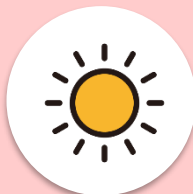
… 営業利益が前期比で減少。事業が不振で、業績が悪化している状態。

グループ全体

グループ全体の業績は堅調に推移しました。

自動車リース関連事業は車両リースが順調に推移したことに加え、中古車相場高騰によりリース満了車処分の販売単価が好調に推移したことから売上・利益が増加しました。中東情勢の買い込み需要の影響によりケミカル事業とアグリソリューション事業は販売が好調に推移いたしました。また、パーキング事業、機械工具販売事は販売が増加しました。これらの結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の項目で過去最高値を更新しました。

自動車リース関連



・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。

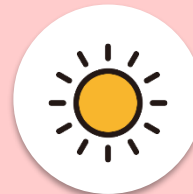
・リース満了車処分の販売単価が上昇したことにより、利益が増加。

ケミカル



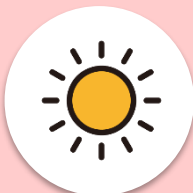
・中東情勢を背景とした買い込み需要の影響もあり、化学品関連の自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品の販売は好調に推移。
・一方、工業薬品関連の燃料添加剤の販売は減少。
・原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加。

パーキング



・新規駐車場の開発が順調。
・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

機械工具販売



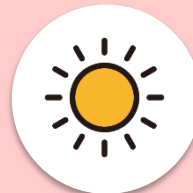
・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに建設機械部品の販売は順調に推移。
・産業機械部品及びDIY用品等の販売は減少。
・上記要因における販売増加の影響により、利益が増加。

合成樹脂



・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移。
・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が減少。
・タイにおける自動車市場の低迷を背景に、自動車用内外装部品の販売は低調に推移。

アグリソリューション



・中東情勢不安による秋肥需要の前倒しの影響もあり、肥料製品の販売は順調に推移。
・農作物の販売数量は減少したものの、販売単価は上昇。
・肥料製品の販売数量の増加に加え、新規連結した太陽肥料株式会社の業績が寄与し、利益が増加。

2027年3月期 第1四半期連結損益計算書（百万円未満切捨）



単位：百万円		2026年 3月期1Q		2027年 3月期1Q		前期比 増減率	2027年 3月期 1Q 計画	計画比
		金 額	構成比	金 額	構成比			
売上高		41,145	100.0%	45,262	100.0%	110.0%	44,946	100.7%
	自動車リース関連	16,168	39.0%	16,868	37.0%	104.3%	16,072	105.0%
	ケミカル	2,825	6.8%	3,612	7.9%	127.8%	3,018	119.7%
	パーキング	1,988	4.8%	2,081	4.6%	104.7%	2,098	99.2%
	機械工具販売	9,485	22.9%	10,075	22.1%	106.2%	10,464	96.3%
	合成樹脂	4,834	11.7%	4,686	10.3%	96.9%	6,236	75.2%
	アグリソリューション	5,553	13.4%	7,759	17.0%	139.7%	6,726	115.4%
	その他	556	1.4%	528	1.1%	95.1%	599	88.3%
	調整額	▲266	-	▲352	-	-	▲267	-
売上総利益		9,138	22.2%	10,222	22.6%	111.9%	9,750	104.8%
販売管理費		5,888	14.3%	6,063	13.4%	103.0%	6,656	91.1%
営業利益		3,250	7.9%	4,159	9.2%	128.0%	3,094	134.4%
経常利益		3,292	8.0%	4,281	9.5%	130.0%	3,030	141.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,470	6.0%	7,486	16.5%	303.0%	6,665	112.3%

2027年3月期 第1四半期セグメント別営業利益 (百万円未満切捨)

単位：百万円		2026年 3月期1Q	2027年 3月期1Q	前 期 比 増 減 率	2027年 3月期1Q 計画	計 画 比
		金 額	金 額			
営業利益		3,250	4,159	128.0%	3,094	134.4%
	自動車リース関連	1,926	2,122	110.2%	1,430	148.5%
	ケミカル	246	522	212.3%	226	231.4%
	パーキング	341	366	107.3%	356	102.9%
	機械工具販売	136	293	215.7%	185	158.5%
	合成樹脂	▲33	2	-	252	1.2%
	アグリソリューション	599	859	143.3%	644	133.4%
	その他	29	▲2	-	0	-
	調整額	4	▲6	-	1	-

(自動車リース関連)

- ・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
- ・リース満了車処分の販売単価が上昇したことにより、利益が増加。

(ケミカル)

- ・中東情勢を背景とした買込み需要の影響もあり、化学品関連の自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品の販売は好調に推移。
- ・一方、工業薬品関連の燃料添加剤の販売は減少。
- ・原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加。

(パーキング)

- ・新規駐車場の開発は順調に推移。
- ・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

(機械工具販売)

- ・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに建設機械部品の販売は順調に推移。
- ・産業機械部品及びDIY用品等の販売は減少。
- ・上記要因における販売増加の影響により、利益が増加。

(合成樹脂)

- ・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移。
- ・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が減少。
- ・タイにおける自動車市場の低迷を背景に、自動車用内外装部品の販売は低調に推移。

(アグリソリューション)

- ・中東情勢不安による秋肥需要の前倒しの影響もあり、肥料製品の販売は順調に推移。
- ・農作物の販売数量は減少したものの、販売単価は上昇。
- ・肥料製品の販売数量の増加に加え、新規連結した太陽肥料株式会社の業績が寄与し、利益が増加。

2027年3月期 計画（連結）【2026年8月5日公表数値】（百万円未満切捨）

単位：百万円		2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期計画	前期比の主な増減要因
売上高	自動車リース関連	61,361	64,135	63,861	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	11,854	12,082	12,806	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	7,905	8,169	8,597	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善、設備リニューアルによる稼働率向上
	機械工具販売	36,085	38,019	42,866	高単価・高収益商材の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	19,026	19,029	22,349	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	アグリソリューション	17,578	19,635	53,186	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化など
	その他	2,153	2,358	2,591	新規連結した太陽肥料、イチネンM A C、エムシー・ファーターティムの業績寄与
	調整額	▲1,044	▲1,176	▲1,185	
	合 計	154,920	162,254	205,071	
営業利益	自動車リース関連	6,547	6,769	5,707	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	848	1,061	1,228	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	1,265	1,436	1,456	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善
	機械工具販売	▲141	251	1,007	高収益な自社オリジナル商品の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	336	▲170	644	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	アグリソリューション	1,168	1,453	2,019	前期に肥料製品の販売単価が好調だったことによる反動減 新規連結した太陽肥料、イチネンM A C、エムシー・ファーターティムの業績寄与
	その他	236	100	161	
	調整額	19	24	13	
	合 計	10,279	10,926	12,235	
経常利益		10,318	10,998	11,342	
親会社株主に帰属する当期純利益		6,657	7,652	11,903	太陽肥料、イチネンM A C、エムシー・ファーターティムの株式取得に伴い、負のれん発生益4,720百万円を特別利益に計上
株主資本利益率（R O E）		10.65%	11.24%	15.57%	同上
総資産経常利益率（R O A）		5.06%	5.28%	5.19%	

2027年3月期 四半期セグメント別利益計画 (百万円未満切捨)



単位：百万円		第1四半期	第2四半期（累計）	第3四半期（累計）	第4四半期（累計）
自動車リース関連	売上高	16,072	31,914	48,244	63,861
	売上総利益	3,250	6,752	9,525	12,932
	営業利益	1,430	3,106	4,103	5,707
ケミカル	売上高	3,018	6,252	9,663	12,806
	売上総利益	1,237	2,569	3,912	5,183
	営業利益	226	571	916	1,228
パーキング	売上高	2,098	4,251	6,441	8,597
	売上総利益	577	1,183	1,792	2,344
	営業利益	356	738	1,128	1,456
機械工具販売	売上高	10,464	21,225	32,042	42,866
	売上総利益	2,007	4,082	6,023	8,068
	営業利益	185	514	678	1,007
合成樹脂	売上高	6,236	12,529	17,819	22,349
	売上総利益	1,281	2,470	3,671	4,709
	営業利益	252	403	616	644
アグリソリューション	売上高	6,726	15,264	32,159	53,186
	売上総利益	1,285	2,062	4,304	7,122
	営業利益	644	57	806	2,019
その他	売上高	599	1,255	1,937	2,591
	売上総利益	156	359	574	780
	営業利益	0	58	105	161
調整額	売上高	▲267	▲543	▲889	▲1,185
	売上総利益	▲43	▲83	▲126	▲168
	営業利益	1	6	10	13
合 計	売上高	44,946	92,147	147,416	205,071
	売上総利益	9,750	19,394	29,675	40,970
	営業利益	3,094	5,453	8,362	12,235

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

株主還元について

株主還元方針

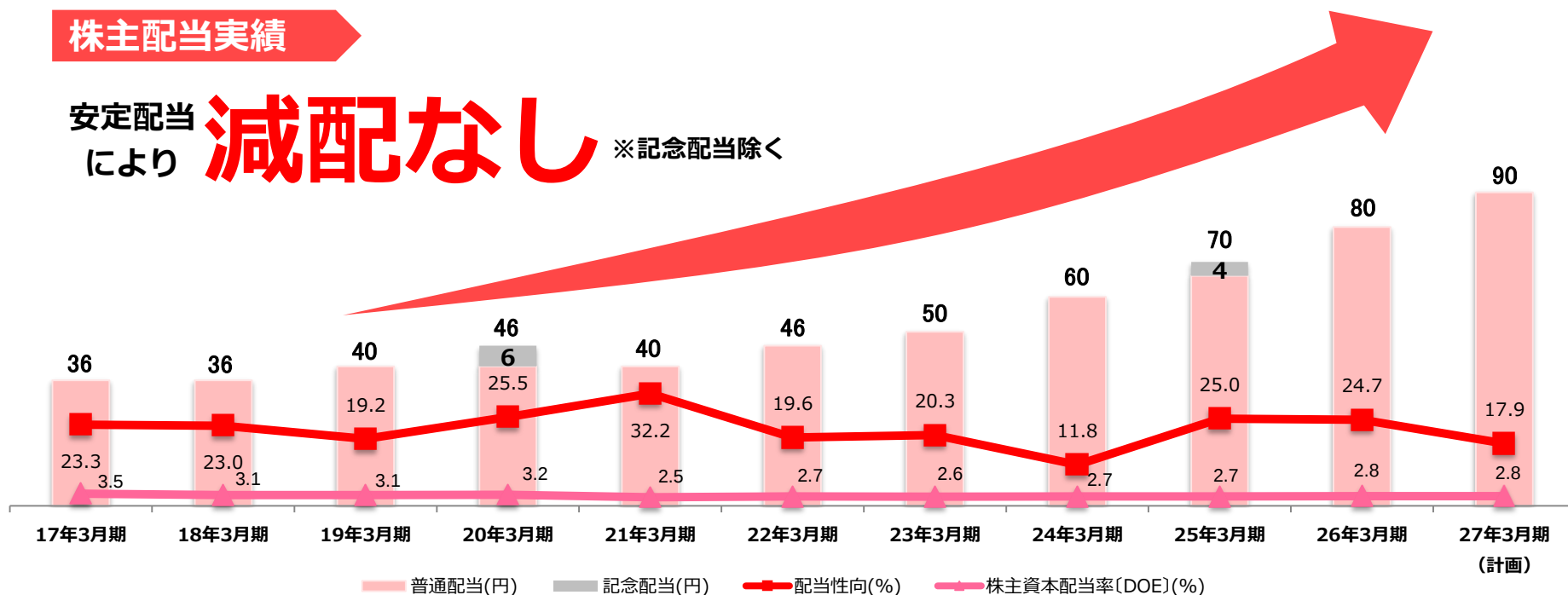
配当性向**20%～30%**程度を目安に、**安定的な配当**の実施を目指します

1株あたりの配当金（予想）

中間期末	期 末	年 間
増配 45円	増配 45円	90円

株主配当実績

安定配当により **減配なし** ※記念配当除く



当社は2023年3月末日時点の株主名簿に記載された株主様への贈呈をもって、株主優待制度を廃止いたしました。

株価について



直近の株価

2,686 円

※8月18日終値ベース

その他指標

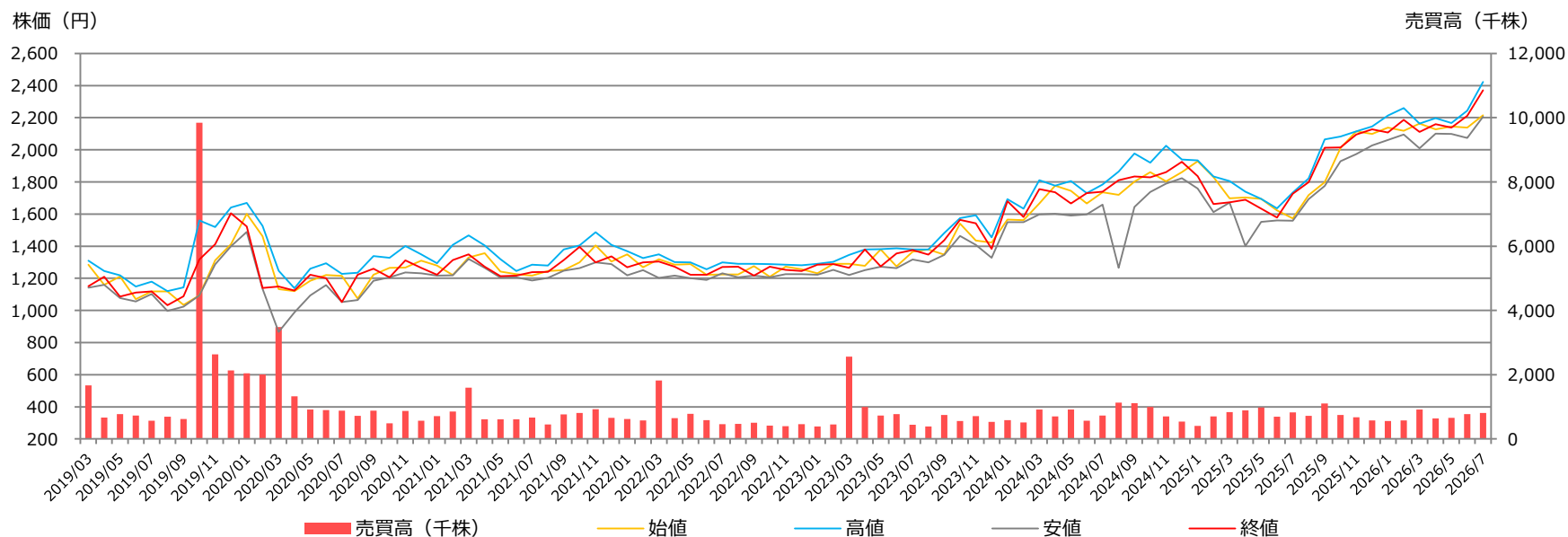
※8月18日終値ベース

時価総額 **638億円**

配当利回り **3.35%**

PBR **0.81倍**

株価の推移



※株価及び売買高の表示は月次ベースです。(株価は月末時点の数値、売買高は月の売買高の合計)

01

1.イチネングループについて

02

2.イチネングループが向かうところ

03

3.イチネングループの事業紹介

04

4.決算報告・今期の計画

05

5.株主還元について

06

6.企業価値向上に向けた取り組み

環境

●各事業の取り組み

- ◆ケミカル事業：脱炭素社会に貢献するバイオマス添加剤
 - ・ バイオマス発電向けの燃料添加剤「バイオトニックシリーズ」
 - ・ 汎用樹脂向けバイオマス添加剤「ON E バイオ」
 - ・ 植物由来の原料を使用した「Green JIP」シリーズ など
- ◆パーキング事業：交通渋滞緩和による環境負荷の低減
- ◆機械工具販売事業：自社ブランドの冷媒回収装置がオゾン層保護・地球温暖化防止大賞受賞！
- ◆合成樹脂事業：リサイクルペレットの製造/販売
- ◆アグリソリューション事業：被覆尿素の殻が残ることが無く、環境にやさしい省力栽培を可能にする肥料
 - ・ エコフレンズN20
 - ・ テンボロン（政令指定土壌改良資材）など

イチネングループでは、事業活動や提供する商品・サービスが地球全体の環境にできる限り負荷を与えないよう最大限努めております。



社会（人的資本）

●農業を通じた地域貢献

日本の誇るべき農業を通じて雇用を促進させ、地域コミュニティとの連携も行い、地域活性化に貢献できるよう努力し、安全、安心、そして美味しい野菜をお届けします。

さらに、農場では海外からの技能実習生や特定技能生も受け入れており、途上国への技術の移転や普及に農業を通じて貢献できるよう取り組んでまいります。



ガバナンス

●取締役会の監査機能強化および多様性の強化

女性取締役比率

22.2%

(2026年6月17日時点)

男性取締役

7名

女性取締役

2名



社外取締役比率

44.4%

(2026年6月17日時点)

社内取締役

5名

社外取締役

4名



●コンプライアンス・リスク管理体制

当社グループは、法令遵守とリスク管理を持続的成長の基盤と位置付けています。予防的視点での発生防止と、戦略的視点での適正管理を両立し、子会社を含む全社で情報共有と迅速な対応を実施しています。



◆基本方針

- ◆ リスク＝予期せぬ損失の可能性と定義
- ◆ 発生防止・許容範囲での制御を徹底
- ◆ リスク管理を経営の重要課題として位置付け

◆リスク対応の区分

- ◆ 極小化すべきリスク（事務・システム等）は防止策を強化
- ◆ 引き受けるリスク（投融資等）は自己資本等を踏まえ適正水準に制御

◆管理体制

- ◆ 内部管理体制を整備し、全社的に実行
- ◆ 子会社のリスクは担当役員、所管部門、コンプライアンス・リスクマネジメント委員会が連携し指導・助言

ウェブサイト・資料のご案内



IRサイト : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/>

イチネンホールディングス IR

検索

IRサイト



IRライブラリー

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library/>



IRカレンダー

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/calendar/>

今後の説明会スケジュール及び過去の説明会の動画（※）についてもこちらよりご確認いただけます。

※説明会の動画については一部のみの公開となっております。



株式会社 イチネンホールディングス

株式会社 イチネンホールディングス
2024年3月期 決算説明会



統合報告書・TCFDレポート発刊のご案内

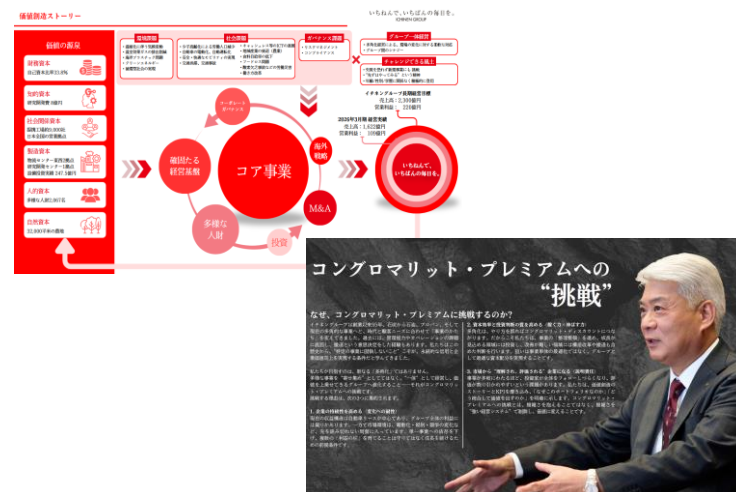
統合報告書

東証プライム上場企業として、非財務情報の開示を一層強化するため、2021年よりグループ横断の社内プロジェクトを組成し、統合報告書の制作を進めてまいりました。

2026年の統合報告書では、掲載内容やデザインを刷新し、より分かりやすく当社グループの価値創造ストーリーをお伝えできる内容へとリニューアルいたしました。イチネングループの企業価値創造に向けた取り組みを掲載しておりますので、下記URLより是非ご覧ください。

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library6/>

過去の統合報告書も含め、QRコードよりアクセスできます⇒



TCFDレポート

2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードにより、東証プライム上場企業には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに基づいた気候変動問題に対する情報開示が求められています。

現状において、当社グループが認識している気候変動問題に係るリスク、機会、並びにそれらへの対応策等について、『イチネングループTCFDレポート』として取りまとめましたので、是非下記URLよりご覧ください。

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/environment/tcfd/>

過去のTCFDレポートも含め、QRコードよりアクセスできます⇒



ご清聴ありがとうございました。



ICHINEN HOLDINGS

【9619】

このプレゼンテーション資料には、現時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。実際の業績は、今後のさまざまな要因によって、これらの計画・見通しとは異なる可能性があります。

弊社のIRニュースはこちらよりご覧いただけます。
<https://www.ichinenhd.co.jp/ir/news/>

